

《研究報告》

「こうやってあそびたいな！」

— 一人ひとりの願いが

あそびの中で動きはじめる時 —

上田女子短期大学 附属幼稚園 白 鳥 恵

I テーマがうまれるまで

子どもたちが遊んでいる姿を見ていると、いろいろな場面が見えてくる。子どもにとって園生活は、「おもしろそうだな。」「こうやってみようかな。」など、好奇心を満たしてくれる楽しい場。夢中になって遊びに没頭できる場であってほしい。そして、生活の流れの大半を、家庭や地域で過ごす子どもの意識の中では、そこでの生活と園生活とは連結しているのではないかと思われる。

望ましい人間関係の中で、友だちや先生と触れ合い、まわりの環境や素材と関わりあって夢中になり、自分とまわりとの関わり方を変えていこうとする時、そこに、一人ひとりの願いが遊びの中で動き出す様子を見ることができにちがいない。そこでこのテーマがうまれた。

II 研究内容

附属幼稚園の教育目標を基盤にして、どの子にとっても、毎日の園生活が生き生きできる場と時であるよう援助の在り方を考えて、毎日の保育を進めてきている。その中で、次に上げられる事が保証されていることが大切なのではないかと考えた。

- ◎まわりに、自分の気持ちをわかってくれる友だちや先生がいる。
- ◎家庭生活と園生活との連携がとれている。
- ◎どんな関わり方、遊び方をしてもよさそうだ、という安心感がある。

◎好きなことを好きなだけして遊ぶ時間がある。

これらの角度により、子どもの遊ぶ姿をつぶさに見つめ、事例を上げながら考察していく。又、家庭生活での子どもの状況を把握するため、アンケート調査を実施し、合わせて考察していきながら、研究を進めてきた。

Ⅲ 保育の実践

〈事例1〉おすしやさん はじめたよ!!

太郎（5歳・男）は、自分のイメージをはっきり持ち、それを友だちに伝えながら発展させ、より楽しく遊ぼうと工夫するので「太郎君と遊ぶとおもしろいな」と一目おかれている。が、自分のイメージ以外のことをする子を叱ったり、強制して自分の思い通りにさせてしまう面がある。そんな太郎が遊戯室でおすしやさんごっこを始めた。気の合う友だちがすぐに仲間入りし、クラス全員を巻き込んで、回転ずしごっこが広がっていった。いっしょに遊んでいたE男の言葉から、お金を使うようになったり、はずかし気なG子のためにプリンを流して、喜ぶG子を見て自分も嬉しくなったり…。太郎は友だちのいろいろな刺激を受けることによって、遊びをふくらませていったのではないかと。自分のやりたいことを友だちとじっくり遊ぶことのできた太郎は、この日、トラブルもなく、満足するまで遊び込めたのだった。

〈事例2〉私も描いてみよう!

はなこ（3歳・女）は、初めての集団生活の中での緊張がほぐれず、表情も硬く、安心して自分を出していないように思われる。母親からも「初めての事には慣れるのに時間がかかる。」との連絡を受けている。そんなはなこに担任は、「安心した気持ちで、自分のやりたいことを見つけて遊んでほしい。」との願いを持ち、援助してきた。絵を描くことが大好きなはなこが、より気持ちを解放して取り組めるのでは…と考えたのが、クレヨンでの活動だった。仲の良い友だちが、楽しそうに描いている姿を見て、緊張したり不安だった気持ちが少しづつとけ、気持ちの余裕ができ、「おもしろそうだな」「自分もやってみたいな」という思いが広がっていったようだ。

子どもたちは毎日、自分の中にある課題や問題を、無意識のうちに乗り越えようとしている。その時後ろから、しっかり支えていける保育者であること、又、子ども自

身が、自分のペースをつかみ、生活、遊びのリズムを作り、慣れていくのだということ、改めて感じさせられた。

〈事例3〉牛乳パックのバッグを作りたいな

次郎（3歳・男）は、空箱や紙での製作が大好きで、手先を器用に使って遊んでいる。クラスの友だちが、年中の友だちから作ってもらった牛乳パックにビニールの取手をつけたバッグをもらってきたことにより、まわりの友だちが真似して作り始めた。その姿に刺激され、作りたい、／という欲求が高まっていく次郎。まわりの友だちの様子に目を向け、言葉に耳を傾け、さらに担任の言葉に刺激され遊びを広げていった。大勢の友だちとの関わりが多く、友だちからの刺激を受けることがある環境、友だちの遊びの様子がよく見える空間に生活していることも、次郎の育ちに関係していたのではないと思われる。また、遊びの中で必要なものを「ちょうだい」と言えた次郎の自己表現の姿も大事に育てていきたい。

〈事例4〉新聞紙で 遊ぼう

良子（4歳・女）は、自分のイメージをどんどんふくらませ遊んでいく姿が見られる。遊びの中で、自分のイメージしたものの完璧な姿を望むので、自分の思い通りにいかないと遊びが停滞してしまうことがある。そんな良子が、沢山の新聞紙と戯れる中で、

- ①新聞紙を集める
- ②新聞紙を集めて山にする
- ③新聞紙をかけ合ったりもぐったりする
- ④新聞紙のお風呂にしよう
- ⑤新聞紙のプールだ、／

と、新聞紙との関わりを変えてきている。それを支えていたのは、一緒に遊ぶ仲よしのりえ子であり、まわりの友だちだった。「うまくいかないー。」とそこから避けてしまうことの多かった良子が「プールみたい、／」と友だちの遊び方を自分も楽しんだり、りえ子とニッコリ顔を見合わせて、もっと集めようと頑張ったり、ただおの考えた積木の囲いを素直に「いい考え」と受け入れていく姿から、友だちとの関わり方をも変えながら遊びを広げていく姿が見られた。

Ⅳ 研究を通して学んだこと

①ふだんの生活の中で、友だちの遊びの様子を見たり、なにげない言葉を聞いて遊んでいるうちに“こうやって遊びたい”“ああやってみようかな”と自分の願いがうまれてくる。

そして、自由に関われる物や友だち、時間や空間がたっぷりある環境の中で遊んでいくうちに“もっとこうしてみたい”“こんなふうにしたらどうだろう”と確かめたり、試したりしていく時が、“遊びの中で願いが動きはじめる時”なのではないかと思われる。

②更に、自分とまわりの物との関わり方を変えていくこと、自分と友だちとの関わり方を変えていく時が、子どもたちが遊び出す時と言えそうだ。

アンケート調査は、平成8・9・10年の3か年、同一項目で附属幼稚園の全園児を対象に実施した。このアンケート結果からうかがえる幼児の生活や遊びの傾向は、㊦生活リズムは概して良好だが、一部に夜型の傾向がみられる、㊧テレビ視聴は子ども番組が中心で、一部の子は3時間以上みている、㊨年長になるほど、友だちとの遊びが増えていく、㊩テレビゲームには、それほど執着していないが、年長になるほど持っている子が増える、㊪全体に外遊びが少なく、その時間も短く一人遊びが多い、などであった。

これらの結果や、前述の事例から学んできたことを考察してみると、

- ・集団で（友だちや先生と）遊ぶ経験
- ・集団生活の中でのルールを知り人間関係を築く
- ・自然の中での遊びを十分楽しむ
- ・外遊び、体を動かして遊ぶ経験 等

幼稚園ならではの経験を大切にしていこうことの重要性を改めて知ることができた。

Ⅴ これからの課題

子どもの願いをつぶさに見取り、その願いが子ども自身の願いとなってふくらんでいくために、教師の在り方、環境構成はどうあったらよいか、考えていきたい。